

「西安交通大学サマースクール参加報告書」

京都大学法学部1年 横山雄大

夏休みを利用した西安への短期留学は、自分にとって有意義なものになったように思います。これまでは海外へ留学したいという、漠然とした気持ちしかありませんでした。しかし今では、留学のために今から準備を始めようという気持ちになり、その候補地の中で中国が一番上のものになりました。また、そのためには英語はもちろん中国語の能力も必要なため、大学の講義だけでなく自学自習を含めた勉学を進めようと決心しました。法学分野についても、日本と中国の法律の違いを感じることができ、海外の法律についても学んでみたいという気持ちが生まれました。またその違いから、その国々によって法や慣習により咎められる内容が少し異なっているということも感じました。これらの気づきは日本では意識したことのないものでした。

また中国では英語が通じないことも多く、西安の大学生たちの助けなしでは困ることもありました。このことから、語学力の大切さを痛感しました。またこのような場面で、交通大学の学生たちは親身になって助けてくれ、とてもありがたかったです。近年日中関係の悪化が叫ばれていますが、彼らとの交流の中でそれを感じることはありませんでした。また街中で見ず知らずの人から「どこから来たのか」と聞かれたときも、日本人だからと言って態度が急変したりせず、むしろ好意をもって接してもらうことのほうが多く感じました。これはニュースだけでは感じにくいものであり、とても貴重な体験だったと思います。

プログラムでは中国語の授業が提供されていました。そこではほぼ中国語しか使われず、自分の語学力も大きく進歩したと思います。これを生かして、京都での中国語の講義を頑張りたいと思います。それ以外にも、漢詩朗読のような、中国文化についての理解を深めることのできる授業が提供されていました。これを通じて、中国の昔からの文化を少しだけでも理解できたと思います。また、大学生との交流ではカラオケなど若い習慣についても学ぶことができました。

このプログラムへの参加を通じて、中国への今日もがさらに深まりました。短期的なものでは、近いうちに中国へ旅行に行きたいと思っています。中期的なものでは、中国への留学や語学力を上げてHSKに挑戦したいと思っています。長期的なものでは、より中国への理解を深め、将来的に中国と日本との間をつなぐ仕事に就きたいと思っています。また一回生のうちに参加する価値はあったと思います。何よりもこれから大学で残された時間が長いです。このプログラムは自分の大学やそれ以降での生活に大きな影響を及ぼす、と言っても過言ではないと思います。